

東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル

令和4年度取組状況



令和4年11月24日

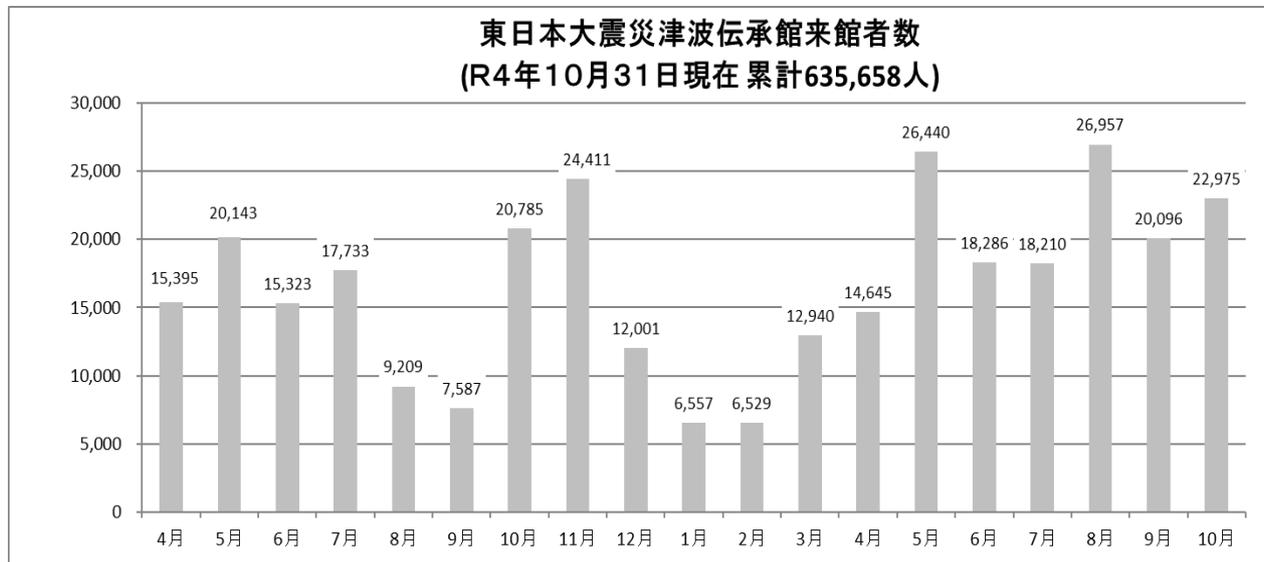
目 次

項 目	頁
来館者の状況	
1 来館者の状況	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	4
令和4年度取組状況	
I 展示事業	
1 常設展示の維持管理	5
2 企画展示の開催	5
3 解説員の資質向上	6
4 安全な見学環境の確保	6
II 教育・普及事業	
1 いわて TSUNAMI メモリアルセミナーの開催	7
2 震災学習プログラムの運用	8
III 誘客宣伝事業	
1 情報発信	8
2 教育・研修旅行の誘致促進	9
3 多様な来館者の誘致促進	9
4 震災伝承施設の広域連携推進（3.11 伝承ロードとの連携）	9
IV 交流・連携の推進	
1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開	10
2 他の大規模災害被災地域との交流・連携	10
3 大学との連携	10
<参考> 東日本大震災津波伝承館概要	11

1 来館者の状況

1 来館者の状況

単位：人



令和4年4月30日に累計50万人に到達（10月末時点では約63万人）、ゴールデンウィーク期間（4/29～5/8）には約1万8千人の来館（対前年比1.4倍）があり、同期間の5月4日には、開館以降最多の来館者数（3,352人）を記録した。

令和4年度 月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	14,645	26,440	18,286	18,210	26,957	20,096	22,975						147,609
開館日数(B)	30	31	30	31	31	30	31						214
平均来館者数(A/B)	488	853	610	587	870	670	741						690

※ 1) 令和4年度の最多来館者数：3,352人(令和4年5月4日(水・祝))

2) 令和4年10月8日(土)：三陸花火競技大会に伴う交通規制の影響により16時閉館

令和3年度 月別来館者数と平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	15,395	20,143	15,323	17,733	9,209	7,587	20,785	24,411	12,001	6,557	6,529	12,940	168,613
開館日数(B)	30	31	30	31	12	13	31	30	28	27	26	31	320
平均来館者数(A/B)	513	650	511	572	767	584	670	814	429	243	251	417	527

※ 1) 令和3年度の最多来館者数：2,605人(令和3年5月3日(月・祝))

2) 令和3年8月13日(金)～9月17日(金)は「岩手緊急事態宣言」の発令に伴い休館

3) 令和4年1月16日(日) トンガ沖海底火山の大規模噴火に伴う津波警報の発表により休館

4) 令和4年2月8日(火)及び9日(水)は展示装置等保守点検に伴い休館

令和4年度 平日、土日祝日別来館者数（10月31日現在）

単位：人、日

	平日			土日・祝日			計	
	R4年度 実績	R3年度 実績	R3年度 年間累計	R4年度 実績	R3年度 実績	R3年度 年間累計	R4年度 実績(計)	R3年度 実績(計)
	(10月末日時点)			(10月末日時点)				
来館者数(A)	82,392	54,689	91,738	65,217	51,486	76,875	147,609	168,613
開館日数(B)	143	117	214	71	61	106	214	320
平均来館者数(A/B)	576	467	429	919	844	725	690	527

1日当たりの平均来館者数は、平日が576人、土日祝日が919人と、いずれも前年度を上回っている。

なお、土日祝日の来館者数は概ね平日の1.6倍（前年度1.8倍）となっており、学校をはじめとした平日の来館者数の増加に伴い、前年度に比して土日祝日との差が縮小している。

2 区分別団体予約の状況

令和4年度 区分別団体予約件数（10月31日現在）

単位：件、人

		予約件数			人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	118	14	132	4,939	566	5,505
	中学校	59	50	109	3,309	3,970	7,279
	高校	29	22	51	1,503	1,420	2,923
	大学	6	15	21	107	215	322
	小計	212	101	313	9,858	6,171	16,029
学校以外	観光ツアー	5	399	404	130	7,256	7,386
	海外（観光含む。）	0	8	8	0	209	209
	地域の団体	72	52	124	1,565	983	2,548
	取材・報道	1	10	11	1	25	26
	国（省庁、議員）	5	5	10	51	49	100
	自治体	7	14	21	127	173	300
	議会	1	0	1	12	0	12
	議会（県外）	0	8	8	0	61	61
	県（部局、県議会）	12	0	12	143	0	143
	その他	66	104	170	1,023	1,925	2,948
	小計	169	600	769	3,052	10,681	13,733
合計	381	701	1,082	12,910	16,852	29,762	

※ 令和4年10月31日までの予約件数（キャンセルを除く）

区分別にみると、学校では、県内は小学校（118件）による利用が多いが、県外は中学校（50件）による利用が多い。学校以外では、県外の観光ツアー（399件）による利用が突出して多い。

なお、その他には、法人の研修等利用、任意の団体、専門学校等が含まれる。

3 都道府県別団体予約の状況

令和4年度 都道府県別団体予約件数（10月31日現在）

単位：件、人

	予約件数	人数		予約件数	人数		予約件数	人数
北海道	10	409	石川県	4	93	岡山県	3	55
青森県	21	612	福井県	3	264	広島県	3	102
岩手県	381	12,910	山梨県	2	47	山口県	1	2
宮城県	51	1,763	長野県	7	313	徳島県	0	0
秋田県	13	366	岐阜県	2	27	香川県	0	0
山形県	20	950	静岡県	7	215	愛媛県	1	12
福島県	23	699	愛知県	47	1,021	高知県	0	0
茨城県	7	95	三重県	2	44	福岡県	4	66
栃木県	1	7	滋賀県	1	13	佐賀県	0	0
群馬県	1	12	京都府	5	116	長崎県	0	0
埼玉県	11	356	大阪府	22	338	熊本県	0	0
千葉県	4	67	兵庫県	4	182	大分県	0	0
東京都	387	7,392	奈良県	1	6	宮崎県	0	0
神奈川県	18	859	和歌山県	1	23	鹿児島県	1	30
新潟県	3	95	鳥取県	0	0	沖縄県	0	0
富山県	1	10	島根県	0	0	海外	9	191
						計	1,082	29,762

都道府県別では東京都（387件）が最も多く、次いで岩手県（381件）、宮城県（51件）が続く。

令和4年度 都道府県・区分別団体予約件数（10月31日現在）

単位：件

	観光ツアー		小学校		中学校		高校	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	東京都	320	岩手県	118	岩手県	59	岩手県	29
2	愛知県	20	山形県	5	宮城県	11	東京都	8
3	大阪府	15	東京都	3	秋田県 神奈川県	6 6	宮城県 福井県 京都府	2 2 2
4	福島県	11	宮城県	2	北海道 青森県 山形県	5 5 5	その他	8
5	その他	38	その他	4	その他	12	—	—
	計	404	計	132	計	109	計	51

団体区分別では、観光ツアーでは東京都（320件）が最も多く、学校ではいずれも岩手県が多い。

2 令和4年度取組状況

I 展示事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、常設展示、解説員による展示解説及び企画展示を通じて、来館者に効果的な学びの場を提供している。

1 常設展示の維持管理

所要の修繕等、展示機器を維持管理。

今後、3.11 伝承ロードマップ（エントランス）について、伝承施設の新規登録に対応した改修を予定している。

また、コロナ禍に対応して供用を停止していた展示機器について、今後の状況を注視しつつ、運用の正常化を予定している。

2 企画展示の開催

当館主催及び関係団体との共催による企画展示を次のとおり実施している。

【実績・予定】

	主	共	展示内容・期間等	
1		①	<p>気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 ゴールデンウィークイベント (4/29～5/8、同館との共催)</p> <p>当館企画展示パネル（令和3年度第4回）の貸出展示により本県沿岸地域の復興状況を発信した。</p>	
2		②	<p>名古屋市港防災センター企画展 「土からわかる防災のはなし」 (5/24～8/31、同センターとの共催)</p> <p>当館企画展示パネル（令和2年度第1回）の貸出展示により東日本大震災津波発災当時の時間経過を紹介した。</p>	
3	①		<p>第1回「碑文が語る三陸の地震津波」 (6/18～7/18)</p> <p>三陸に点在する碑文やその建立経過を紹介し、三陸の地震津波の歴史をたどるとともに、先人および現在活動が続ける人たちの想いを知る機会を提供した。</p>	

4	②	<p>第2回「事実と教訓を未来につなぐ」 (9/17～10/16)</p> <p>三陸で活動する震災伝承の団体と、その伝承プログラムや伝承の担い手育成等を紹介した。 (監修協力：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)</p>	
5	③	<p>写真展「東日本大震災津波と海上保安庁」 (10/7～30、釜石海上保安部との共催)</p> <p>津波による行方不明者の捜索等の写真を通して、当時の海上保安庁の活動、そして、津波から避難し命を守ることの大切さを紹介した。</p>	

※以下、予定

6	③	第3回企画展示 展示テーマ未定 (12月頃)
7	④	第4回企画展示 いわて三陸沿岸の今 2022 (3月頃)

3 解説員の資質向上

年2回程度の集合研修のほか、他の震災伝承施設の見学研修等を通じ、東日本大震災津波の事実や他の伝承団体・施設について認識を深め、解説員の資質向上を図っている。

【実績・予定】

7/22	震災教訓伝承発信ガイドセミナー (沿岸広域振興局主催、県内の震災伝承団体の意見交換等。解説員4名参加)
8/22・29	伝承施設見学研修 (みやぎ東日本大震災津波伝承館、震災遺構門脇小学校ほか)

(以下、予定)

1月下旬	解説研修 (基礎・実務・実技) 一般接遇研修 (接遇とコミュニケーションスキル・障がい者対応) 救命救急研修
(調整中)	外国語解説研修

4 安全な見学環境の確保

(1) 災害発生時における来館者及び職員の安全の確保

各種訓練を次のとおり実施した。

<p>避難経路等の確認 実施日：令和4年4月1日 参加機関：東日本大震災津波伝承館 新任職員他 計4名 内容：令和4年度人事異動により着任した職員に対し、 避難経路や誘導看板等の確認を行い、円滑な避難 行動がとれるよう訓練した。</p>	
--	---

<p>津波避難訓練の実施 実施日：令和4年10月29日 参加機関：岩手県、陸前高田市、道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、 来場者（SUNTORY UNION 他） 内容：県の総合防災訓練に合わせ、地震・津波を想定した避難誘導訓練を実施した。 参加者数：関係者20名 来場者約20名</p>	
--	---

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止

三密（密閉・密接・密集）環境の排除、座席等の消毒、マスクの着用、検温及び手指の洗浄・消毒を極力実施するなど、館運営における基本的な感染拡大防止策の徹底を図っている。

新型コロナウイルス感染症対策の取組状況
 来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備による常時換気、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、シアター席等の間隔確保等

II 教育・普及事業

1 いわてTSUNAMIメモリアルセミナーの開催

東日本大震災津波の事実と教訓や三陸復興の姿について学び、体験し、交流する機会として、一般来館者等を対象とする「いわてTSUNAMIメモリアルセミナー」を、震災伝承に関わる学識者や関係団体と連携して開催している。また、企画展示事業と連動して時期やテーマを設定し、相乗効果の発揮を図っている。

<p>6/25・26 7/2・3</p>	<p>「VRで体験～三陸の津波の歴史～」 IBC岩手放送・岩手日報社が共同制作したVR動画「碑の記憶」を体験上映した。</p>	
<p>9/25</p>	<p>開館3周年「震災語り部等ガイドサミット」（いわて復興未来塾と併催） 被災3県の伝承の担い手によるパネルディスカッション等。当館から吉田解説員がパネリストとして参加した。</p>	

10/15・16	<p>「体験しよう！ 防災×観光アドベンチャーゲーム『あの日』」</p> <p>株式会社キャッセン大船渡が提供する「防災×観光アドベンチャーゲーム あの日」 （監修：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授）の体験イベントを開催した。</p>	
----------	--	---

(以下、予定)

12月頃	(検討中)
3月頃	(検討中)

2 震災学習プログラムの運用（校種等に対応した教材の作成と活用）

学校のニーズに対応した展示解説を行うほか、予習・復習に対応した震災学習教材（震災学習ノート・震災伝承ノート）を配付している。

	震災津波伝承ノート（中高校生用）	震災津波学習ノート（小学生用）
表紙		
配布実績	延べ 108 校・4,080 部	延べ 108 校・6,312 部

3 オンライン展示解説の実施

コロナ禍への対応、また、来館が難しい遠隔地の学校・団体等に向けた新たな震災伝承スタイルを模索するため、関係機関と連携してオンラインでの展示解説を実施している。

	開催時期	相手方（人数）	摘要
①	9/7	名古屋市立万場小学校（66）	名古屋市との連携・交流事業
②	10/15・16	ぼうさいこくたい 2022	ローカル 5 G 等を活用した地域課題解決支援事業（県科学・情報政策室）
③	11/2	岩手県立宮古高校（定時制）（27）	同上

III 誘客宣伝事業

1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ及び必要に応じ県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図っている。

(2) ホームページ・SNS を活用した情報発信

当館公式ホームページの充実とともに、当館や市内周辺の日々の動向等についてツイッター・インスタグラム等を活用して積極的に発信している。

・フォロワー数等（令和4年10月31日時点）

媒体	投稿数	フォロワー数
Twitter	4,518	2,820
Instagram	500	1,350
Facebook	284	1,050

2 教育・研修旅行の誘致促進

(1) 学校訪問（山田町内の小中学校（4校））

(2) 震災・防災学習現地研修会

復興教育担当教員等を対象に、東日本大震災津波伝承館、岩手県立野外活動センターとその近隣施設等による震災・防災学習プログラムを紹介する現地研修会を実施し、校外学習・修学旅行等での利用促進を図った。

日 時 7月28日（木）・29日（金）
10：15～16：00

※同一課程を1日×2回開催

参加者 県内小・中・高校及び専門学校の復興教育担当教員等（27名）

会 場 東日本大震災津波伝承館
岩手県立野外活動センター



3 多様な来館者の誘致促進

(1) 高田松原津波復興祈念公園等を活用した誘客促進

伝承館と高田松原津波復興祈念公園パークガイドが連携して予約団体を案内できるよう、パークガイド団体予約受付事務局（一社マルゴト陸前高田）と定期的に情報共有を図っている。

(2) 旅行会社と連携した誘客促進

三陸DMOセンター等関係機関が実施する、旅行会社の商品造成企画担当者を招聘する下見旅行（FAMツアー）を受け入れた。

5/29	【首都圏】 株式会社JTB新宿第3事業部（4名）
9/12	【中京地区】 北東北三県観光立県推進協議会 旅行事業者招へい・商談会（9名）
9/16	【首都圏】 岩手県観光協会 旅行事業者招へい・商談会（14名）
10/ 8	【九州地区】 岩手県福岡事務所 旅行事業者招へい・商談会（11名）

4 震災伝承施設の広域連携推進（3.11伝承ロードとの連携）

エントランスに3.11伝承ロードマップを整備し、パンフレット（3.11伝承ロード全体版、岩手県版）を配架している。

また、3.11伝承ロード推進機構が主催する見学ツアーを受け入れている。

6/13	東北復興視察会（10名）
7/ 7	観光ツアー（6名）
7/21	日本建設業連合会関東支部（9名）
9/ 8	三展ミネコンサルタント（15名）
10/ 5	東北測量設計協会（16名）

10/ 7	国土技術研究センター（20名）
10/12	日本建設業協会東北支部（11名）

IV 交流・連携の推進

1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開

県内外の団体による震災伝承活動等を共催・後援するほか、企画展示制作物（過去の企画展示において制作した展示ポスター等）の貸出し等を実施している。

4/29～ 5/ 8	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 ゴールデンウィークイベント ※再掲	共催	展示貸出
5/24～ 8/31	名古屋市港防災センター 企画展「土からわかる防災のはなし」 ※再掲	共催	展示貸出
6/ 3～ 7/ 1	(NPO)おはなしころりん 「今から始める防災・減災展」	/	展示貸出
10/ 7～10/30	釜石海上保安部写真展 ※再掲	共催	/
10/28～11/14	(NPO)おはなしころりん 「いわての復興教育展」	/	展示貸出

2 他地域との交流・連携

(1) 名古屋市との連携交流

名古屋市と陸前高田市との連携交流事業の一環として、名古屋市職員や市民に対して当館の展示解説を実施している（9回）。

また、小中学校を対象としたリモート展示解説を実施している（再掲）。

(2) ぼうさいこくたい2022（再掲）

10月15・16日、兵庫県神戸市の会場において、当館のリモート見学を実施した。

当館に基地局を設置したローカル5G回線を活用し、アバターロボット・360度カメラを用いた遠隔見学のほか、解説員による遠隔展示解説を行った。

3 大学との連携

(1) 東北大学災害科学国際研究所設立10周年記念行事（10月21日）

当館から藤澤副館長が出席した。

(2) 館の運営に関する指導・助言

- ・伝承館の展示全般についての指導・助言（岩手大学理工学部 南教授）
- ・企画展示の監修、館内展示の指導・助言（東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授）

<参考> 東日本大震災津波伝承館概要

1 いわて県民計画（2019～2028）の位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第1期アクションプラン—復興推進プラン（2019年度～2022年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜すい）

1 事実・教訓の伝承

未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

取組項目 22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館の整備・運営

災害の歴史から学び、記憶や経験を語り継ぎ、将来に生かすため、高田松原津波復興祈念公園内に東日本大震災津波伝承館を整備し、展示及び教育・普及の事業を実施します。

また、大学、類似施設、被災地をはじめとする県内各地域等と連携し、防災文化の効果的な醸成と継承を図ります。

2 東日本大震災津波伝承館の設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念 平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

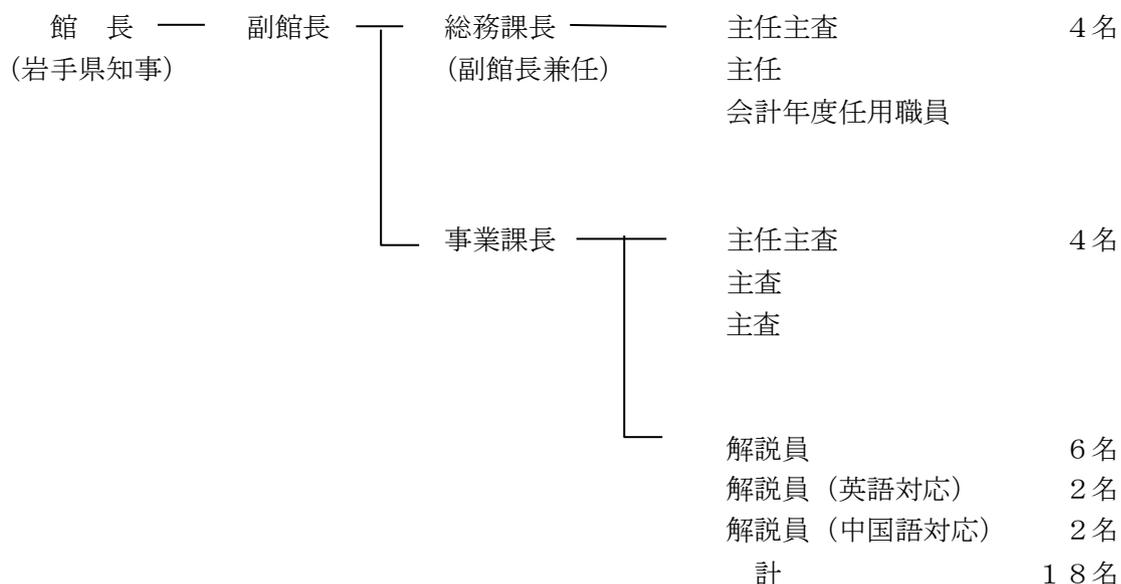
そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

4 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて TSUNAMI メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影 180 番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079 m ² のうち展示面積 1,155 m ²
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

5 組織体制（令和4年4月1日現在）



令和4年11月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて^{つなみ}TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影 180 番地
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>